

在宅医療と内視鏡治療

Vol. 29 No.1 Sep. 2026

ガイドライン

PEG診療ガイドライン2025年版

……………岡山済生会総合病院 内科・がん化学療法センター 犬飼道雄

原著

1. 日本における10年間（2014～2023年度）の栄養管理目的での胃瘻造設件数と
中心静脈ポート留置件数の推移と相関についての検討

……………芙蓉会村上病院 消化器内科 梶原祐策

2. 経皮内視鏡的胃瘻造設術が脳卒中後経管栄養依存患者の部分的経口摂取回復に及ぼす効果

特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター リハビリテーション科 池永康規

3. 胃瘻カテーテル交換時におけるイディアルボタンZEROの苦痛軽減効果

—デジタル騒音計を用いた客観的評価—

……新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院 消化器内科 合志 聡

臨床経験

1. バンパー・ボタン型胃瘻カテーテル交換のタスクシフト

—医師から診療看護師へ—

……………NHO旭川医療センター 統括診療部 消化器内科 横浜吏郎

2. 胃瘻カテーテル交換後の超音波描出特性の検討

—特定行為研修修了看護師と医師の協働による予備的観察研究—

……………公立大学法人横浜市立大学附属病院 看護部 富井ルミ

3. イディアルシースPEGキットを用いた安全な一期的PEG-J造設法

……………大阪市立総合医療センター 消化器外科 長谷川毅

4. 形状記憶ワイヤー装着型胃瘻ボタンを用いた胃瘻交換時におけるトラブルの経験とその対応

……………大阪市立総合医療センター 消化器外科 金城あやか

症例報告

1. 経皮内視鏡的胃瘻造設術困難例として紹介となった1症例

……………公立松任石川中央病院 外科 石井 要

2. PEG造設時にIntroducer法による胃瘻カテーテルの腹腔内逸脱に対してPull法により修復した一例

……………医療法人瑞心会 渡辺病院 消化器科 河野秀俊

3. バンパー埋没症候群に対してイディアルボタンZERO™の特徴により安全に胃瘻カテーテル交換を施行できた1例

……………医療法人社団 千葉秀心会 東船橋病院 胃腸科外科 荒川信一郎

ガイドライン

PEG診療ガイドライン2025年版

犬飼 道雄¹⁾ *、西口 幸雄²⁾、玉森 豊³⁾、日下部 俊朗⁴⁾、細江 直樹⁵⁾、吉田 篤史⁶⁾

岡山済生会総合病院 内科・がん化学療法センター¹⁾

大阪市民病院機構／大阪市立総合医療センター²⁾

和泉市立総合医療センター 消化器外科³⁾

東札幌病院 内科⁴⁾

慶應義塾大学 予防医療センター⁵⁾

大船中央病院 消化器・IBDセンター⁶⁾

[和文要旨]

PEG・在宅医療学会は、アドホック委員会としてPEG Best Practice Advice 委員会を設立し、『PEG診療ガイドライン2025年版』を作成した。『PEG診療ガイドライン2025年版』はPEG や胃瘻に関する診療のあらゆる場面で問題の把握や対応の方向性を明確にし、役に立つことを目指し、エビデンスへの準拠が困難であったり、準拠度が必ずしも高いとはいえないStatementも盛り込んでいる。今後のPEGや胃瘻に関連する診療の質が向上し、患者さんやその家族、そして社会に貢献できることを期待する。

キーワード：胃瘻、PEG、Percutaneous Endoscopic Gastrostomy

原著①

日本における10年間（2014～2023年度）の栄養管理目的での胃瘻造設件数と
中心静脈ポート留置件数の推移と相関についての検討

梶原 祐策*

芙蓉会村上病院 消化器内科

〔和文要旨〕

【目的】日本の胃瘻造設・CVポート留置件数の年次推移や相関因子を調べる。

【方法】NDBオープンデータで2014～23年度の算定回数を調べ、都道府県別に2014年度を100として算出した増減幅との相関をSpearmanの順位相関係数で検討した。

【成績】2014～16年度で胃瘻造設は著減（64,358→53,414回）も、CVポート留置は微減（33,807→32,793回）にとどまった。その後ともに著変なく推移し、2023年度に増加に転じた。胃瘻造設件数の増減幅は高齢人口あたりのNST稼働認定施設・消化器内視鏡専門医数と有意に相関した。

【結論】胃瘻造設件数の減少が目立ち、NST・専門医数が相関した。

キーワード：胃瘻、胃瘻バッシング、中心静脈ポート、COVID-19

原著②

経皮内視鏡的胃瘻造設術が脳卒中後経管栄養依存患者の部分的経口摂取回復に及ぼす効果

池永 康規¹⁾ *、山口 宏美¹⁾

特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター リハビリテーション科¹⁾

[和文要旨]

【目的】長期間経口摂取できない脳卒中患者の栄養管理は経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）が望ましいが経鼻胃管（NGT）留置患者も存在する。NGTは喉頭挙上を阻害し、部分的経口摂取（POF）が出来なくなる可能性があり、PEGとNGTでPOF回復率を比較した。

【方法】PEG69人、NGT59人を対象にPOF可否を従属因子、経管栄養手段（PEGまたはNGT）を独立因子とし、傾向スコアで調整したロジスティック回帰分析を行った。

【結果】POFのオッズ比はPEGで6.5であった。（ $\beta=1.9$, 95%信頼区間1.6-26.0, $P<0.01$ ）。

【結論】PEG使用脳卒中患者はNGT患者と比較し、6.5倍POF回復可能性が高い。

キーワード：経皮内視鏡的胃瘻造設術（PEG）、経鼻胃管（NGT）、部分的経口摂取（POF）、回復期リハビリテーション病棟（CRW）

原著③

胃瘻カテーテル交換時におけるイディアルボタンZEROの苦痛軽減効果

—デジタル騒音計を用いた客観的評価—

合志 聡*

新潟県厚生農業協同組合連合会

上越総合病院 消化器内科

[和文要旨]

バンパー型胃瘻カテーテルは固定性に優れるが交換時疼痛が課題である。新構造のバンパーを有するイディアルボタン ZEROの有用性を検討した。2024年8月～2025年12月の期間の胃瘻交換245例を解析し、デジタル騒音計で音圧を測定して交換時の苦痛・苦鳴を客観的に評価した。従来型のイディアルボタンの抜去時75.3dB、74.6dB、挿入時75.2dBであったのに比して、イディアルボタンZEROは挿入時51.5dB、50.4dB、抜去時51.0dBと有意に低値を示し ($p<0.001$)、同一患者内比較でも同様な結果を示した。イディアルボタンZEROは交換時苦痛を軽減するカテーテルである。

キーワード：胃瘻カテーテル交換、苦痛軽減、音圧測定、イディアルボタンZERO

臨床経験①

バンパー・ボタン型胃瘻カテーテル交換のタスクシフト

—医師から診療看護師へ—

横浜 吏郎¹⁾ *、花山 美帆^{1) 2)}、佐藤 恵輔¹⁾、玉木 陽穂¹⁾、斉藤 裕樹¹⁾、平野 史倫¹⁾

NHO 旭川医療センター 消化器内科¹⁾、

NHO 同 統括診療部²⁾

〔和文要旨〕

当院では2024年より、診療看護師（nurse practitioner: NP）が胃瘻カテーテルの交換を担当している。本研究では、NPによるバンパー・ボタン型カテーテル交換の成績を検討した。2024年1月から2025年5月までにNPは20症例のバンパー・ボタン型胃瘻カテーテルをのべ35回交換した。低侵襲性カテーテルの使用により、留置および抜去に伴う抵抗、疼痛、出血は稀で、重篤な合併症は認めなかった。NPは特定行為の指導も担当し、研修を修了した看護師による胃瘻カテーテル交換も始まっている。カテーテルの適切な選択により、NPはバンパー・ボタン型胃瘻カテーテルを安全に交換している。

キーワード：イディアルボタンZERO、特定行為、合併症

臨床経験②

胃瘻カテーテル交換後の超音波描出特性の検討

—特定行為研修修了看護師と医師の協働による予備的観察研究—

富井 ルミ¹⁾ *、玉井 奈緒²⁾、日暮 琢磨³⁾

公立大学法人横浜市立大学附属病院 看護部¹⁾

公立大学法人横浜市立大学医学部 看護学科²⁾

公立大学法人横浜市立大学附属病院 内視鏡センター³⁾

〔和文要旨〕

【目的】在宅医療における胃瘻カテーテル交換後の胃内留置確認を念頭に、ポータブル超音波診断装置を用いて、異なる構造の胃瘻カテーテルの描出特性と関連所見を検討した。

【方法】3種類の胃瘻カテーテルを使用している在宅療養患者3例を対象に、胃瘻カテーテル交換前後の超音波観察を行った。

【結果】バルーン型と金属ワイヤー内蔵型は明瞭に描出され、胃壁と先端固定部の位置関係を確認できた。一方、バンパー型は描出性が低かった。

【結論】ポータブル超音波診断装置により、交換後の胃瘻カテーテルの描出特性と胃内留置を示唆する所見を観察できた。

キーワード：胃瘻カテーテル交換、在宅医療、特定行為研修修了看護師、ポータブル超音波診断装置、タスク・シフト／タスク・シェア

臨床経験③

イディアルシースPEGキットを用いた安全な一期的PEG-J造設法

長谷川 毅^{1, 2)} *、久保 尚士¹⁾、櫻井 克宣¹⁾、玉森 豊³⁾、坂元 寿美礼¹⁾、
金城 あやか¹⁾、江口 真平¹⁾、清水 貞利¹⁾、西口 幸雄¹⁾

大阪市立総合医療センター 消化器外科¹⁾

住友病院 消化器外科²⁾

和泉市立総合医療センター 消化器外科³⁾

〔和文要旨〕

【目的】胃瘻栄養において逆流症状や肺炎を繰り返す例がみられ、対策の一つとして経胃瘻的空腸瘻（PEG-J）がある。我々はイディアルシースPEGキットを用いて一期的にPEG-Jを安全に造設したので報告する。

【方法】6症例に対して直接法および内視鏡法にて一期的PEG-Jを施行した。Introducer変法でシースダイレーターにて拡張後シースを通してガイドワイヤーもしくは細径内視鏡を挿入しPEG-Jカテーテルを留置した。

【結果】術直後に肺炎を1例認めたが、いずれの症例も長期的には良好な経過であった。

【結論】シースダイレーターを用いることで気腹症を予防することができ、安全に一期的PEG-J造設が可能であった。

キーワード：PEG-J、一期的造設、イディアルシースPEGキット

臨床経験④

形状記憶ワイヤー装着型胃瘻ボタンを用いた胃瘻交換時におけるトラブルの経験とその対応

金城 あやか¹⁾ *、長谷川 毅^{1,2)}、久保 尚士¹⁾、櫻井 克宣¹⁾、玉森 豊³⁾、
坂元 寿美礼¹⁾、江口 真平¹⁾、清水 貞利¹⁾、西口 幸雄¹⁾

大阪市立総合医療センター 消化器外科¹⁾

財団法人住友病院 消化器外科²⁾

和泉市立総合医療センター 消化器外科³⁾

〔和文要旨〕

【目的】胃瘻交換は比較的安全であるが苦痛を伴う手技である。形状記憶ワイヤー装着型胃瘻ボタン（イディアルボタンZERO：以下ZERO）は、交換時の疼痛を軽減し低侵襲に実施することを目的に開発されたが、当院で交換時に経験したトラブルと、対応を供覧する。

【対象】2023年8月から2026年3月までにZEROへ交換した173例を対象とした。

【結果】ワイヤー断裂2例、医原性バンパー埋没症候群4例を認めた。いずれも適切な処置により対応可能であった。

【結論】ZEROは低侵襲で安全性が高い交換用カテーテルだが、合併症を念頭に置き手技を行うことが重要である。

キーワード：形状記憶ワイヤー装着型胃瘻ボタン、胃瘻交換、バンパー埋没症候群

症例報告①

経皮内視鏡的胃瘻造設術困難例として紹介となった1症例

石井 要¹⁾ *、宮崎 賢太郎¹⁾、藤原 優太¹⁾、山崎 祐樹¹⁾、
山口 紫¹⁾、尾山 勝信¹⁾、浅井 純²⁾

公立松任石川中央病院 外科¹⁾、消化器内科²⁾

〔和文要旨〕

経皮内視鏡的胃瘻造設術（Percutaneous Endoscopic Gastrostomy, 以下PEG）が断念された症例において、造設方法を工夫することでPEGが可能となった1例を報告する。症例は74歳、男性。前医にてPEG予定となるも、CT検査にて胃の腹側前面に横行結腸が走行しており、PEG施行が断念された。当院転院後、経鼻胃管より造影剤を注入し、X線透視併用下にPEGを施行した。胃に送気すると、横行結腸が足側に移動することが確認されたこと、および内視鏡においても指サインが認められたことから、安全にPEGが可能であった。PEG施行の可否を、CT検査のみで決定することには慎重になるべきであると思われた。

キーワード：経皮内視鏡的胃瘻造設術、経皮経食道胃管挿入術、横行結腸穿刺

症例報告②

PEG造設時にIntroducer法による胃瘻カテーテルの腹腔内逸脱に対してPull法により修復した一例

河野 秀俊*、久米 真

医療法人瑞心会 渡辺病院 消化器科

[和文要旨]

症例は88歳、女性。脳梗塞後遺症による嚥下障害に対して経皮的内視鏡的胃瘻造設術（Percutaneous Endoscopic Gastrostomy、以下PEG）を施行された。Introducer変法で胃瘻造設を試み、鮎田式胃壁固定具で胃壁固定したが、患者の体動が強く1箇所だけの固定で胃壁固定を中止とした。胃瘻カテーテル（バンパー型）を胃内に留置後、確認のため腹部CTを撮影したところ、胃瘻カテーテルの腹腔内への逸脱とfree airを認めた。外科的処置が施行できる環境にない当院でも可能な修復方法を検討し、ガイドワイヤーを胃瘻カテーテルを通じて腹腔内に挿入し、Pull法にて胃瘻カテーテルを再留置した。

Introducer変法では胃壁固定1箇所では胃瘻カテーテルが腹腔内に逸脱する可能性が高く、また胃瘻カテーテルの腹腔内逸脱に対する修復方法はあまり報告されていない。今回我々は偶発的に胃瘻カテーテルを再留置しえた経験を得たので報告する。

キーワード：PEG、Introducer法、Pull法

症例報告③

バンパー埋没症候群に対してイディアルボタンZERO™の特徴により
安全に胃瘻カテーテル交換を施行できた1例

荒川 信一郎*、石毛 孔明

医療法人社団 千葉秀心会 東船橋病院 胃腸科外科

〔和文要旨〕

症例は77歳、女性。1年前に経皮内視鏡的胃瘻造設術を施行、半年前に胃瘻カテーテルをオリンパス社製「イディアルボタンZERO」に交換した。定期交換時の上部消化管内視鏡でバンパー埋没症候群を認めたが、イディアルボタンZEROの「抜去時にオブチュレーターによる内部バンパーの伸展を伴わない」、「全体が柔軟なシリコン素材のみで構成されている」といった特徴により低侵襲で安全に胃瘻カテーテル抜去・交換が可能であった。

キーワード：イディアルボタンZERO、バンパー埋没症候群、胃瘻、PEG